

小学校第5学年 絵や立体に表す活動と、相互に関連する鑑賞の活動

【学習の方向性】	○感じたことや想像したこと、見たこと、伝えたいことから表したいことを見付け、主題を効果的に表す。 ○活動したことや表現したもののよさや美しさなどを感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を深める。 【A表現（1）イ（2）イ】【B鑑賞（1）ア】〔共通事項〕
【題材名】	言葉から思いを広げて ～『ブックキャット』を読んで感じたことや想像したことから表したいことを見付け、自分らしく表現しよう！～
【題材目標】	○物語に触れながら形や色を思い浮かべ、イメージを広げて絵に表すときの感覚や行為を通して、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを理解するとともに、水彩絵の具などの描画材について、経験や技能を総合的に活かしたり、表現に適した方法を組み合わせたりするなどして、工夫して表すようにする。 ○物語の読み聞かせを基に感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさの感じなどを考えながら、どのように主題を表すか考えるとともに、自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めるようにする。 ○主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに形や色などに関わり、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養うようにする。

【題材の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・物語に触れながら形や色を思い浮かべ、イメージを広げて絵に表すときの感覚や行為を通して、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを理解している。 ・水彩絵の具などの描画材について、経験や技能を総合的に活かしたり、表現に適した方法を組み合わせたりするなどして、工夫して表している。	・物語の読み聞かせを基に感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさの感じなどを考えながら、どのように主題を表すか考えている。 ・自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、友達と関わりながら感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。	・つくりだす喜びを味わい、表現方法に合う表し方を試すなどして主体的に表現や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

本題材における〔共通事項〕の捉え

- ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること。
- イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

自分の感覚や物語から感じたことや想像したことを絵に表す活動を通して、水彩絵の具を活かした形や色などの造形的な特徴を理解し、形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつ。

	活動	具体化した評価の例 【評価方法】	知・技	思・判・表	主体的
1	○「ブックキャット」の読み聞かせを通して、言葉からイメージを広げたり、情景を様々に思い浮かべたりして表したいことを考える。	思・判・表 物語の読み聞かせを基に感じたことや想像したことから、自分が表したいことを見付け、主題をタブレット端末に書き表している。 【観察・発言・ワークシート】	●	●	●
2 3	○主題をどのように表すか絵の構成や表し方を考える。 ○タブレット端末を活用し、形や色の重なり方などを試す。 ○画用紙に表したいことを下描きする。	知・技 自分が描き表したい形や色を思い浮かべ、イメージを広げるためにタブレット端末にスケッチすることを通して、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを理解している。【観察・発言・タブレット端末】 思・判・表 構成の仕方を工夫している絵を参考に、形や色、構成の美しさの感じなどを考えながら、どのように主題を表すか考えて表現している。 【観察・発言・タブレット端末】	●	●	●
4 5 7	○主題に合わせて、形や色を思い浮かべながら、工夫して絵に表す。 ○友達と相互鑑賞を行いながら、表現の工夫について考える。	知・技 水彩絵の具を使い、経験や技能を総合的に活かしたり、表現に適した方法を組み合わせたりするなどして、工夫して表している。【観察・発言】 主 主題に合う表し方を試すなどしながら、主体的に表現や相互鑑賞の活動に取り組もうとしている。【観察・発言】	●	●	●
8	○友達が表した表現のよさや美しさを感じ取ったり、考えたりしながら鑑賞を行う。	思・判・表 自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、鑑賞を通して友達と関わりながら感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。【観察・発言・タブレット端末】	●	●	●

研究内容についてのふりかえり

1. 「学習の方向性」を基に育成を目指す資質・能力を明確にしたカリキュラム・マネジメント

★題材目標を達成するための評価規準や指導について

児童の課題となる技能面や〔共通事項〕の知識面を教員自身が明確にしておくことを大事にしてきた。そこで、物語を読んで、感じたことや想像したことを表現できるように、絵の構成の仕方について考えるヒントとなるスライドを作成した。毎年、勤務校では読書感想画に取り組んでいるが、「どう表現したらいいかわからない。」という児童が一定数いる。児童自身が、表現したい思いを絵に表せるように、タブレット端末を活用し、読書感想画コンクールで入選した絵を参考にしながら、形や色、構成の美しさを考え、自分がどのように表したいのか画用紙に絵を描く前に、多くの児童がイメージすることができていた。

また、水彩絵の具を使い、絵に表していく活動の中で、筆遣いや水の量による色の変化について考えられるように、相互鑑賞を大切にすることで、友達の表現のよさについて感じ取り、自分の表現に活かすことができていた。

★3つの工夫と1つの視点について

出あいの工夫としては、「ももたろう」の話を全員で考えることを通して、どんな絵に表すか話し合うことを行った。登場人物をただ並べて描くよりも、印象的な場面を描くことやお話全体が表現できるように描くことで、自分の思いを表現できるという見通しをもつことができた。そして、構成について、読書感想画コンクールに入選した作品を紹介し、構成の美しさについて考えることで、自分もやってみたいと思う児童も多く、意欲的に活動することができた。

場の設定の工夫としては、教室で席をグループにすることで、友達がどのような表現をしているのか相互鑑賞をしやすいように計画を立てていた。しかし、校内事情により前を向いて活動することが多くなり、相互鑑賞の機会が減ってしまった。そのような中でも、他の児童の表現の工夫を自分から見に行く児童もいた。また、児童が工夫していることを紹介することで、筆遣いや色の表し方、奥行きや動きを意識的に捉え、工夫につながった。

共感的な支援の工夫としては、児童の描いている絵に、助言をするのではなく、「何を描いているのか」児童の言葉で主題について話をしてもらうようにした。もし困っていることがあれば、教師側が選択肢を示し、児童が自己決定できるようにすることで、教師から言われて描かされているのではなく、自分で決めて描いていることを意識させ、意欲的に活動することができた。

小中一貫の視点としては、奥行きや動きを表現するために、構成の仕方や筆遣いを考えさせたことで、光の当たり方や奥行きを表現することにつながった。中学の絵や彫刻に表現する活動にもつながっていくことである。

★〔共通事項〕の捉えと手立てについて

指導者自身が、奥行き・バランス・色の鮮やかさなどの知識、そして造形的な特徴を基に自分のイメージをもつ思考力・判断力・表現力等を意識し、児童が自分から理解できるようにした。そのための手立てとして、どんな絵を表現したいのか、タブレット端末を使い、活動の中で考えさせる場面を設けた。何度も試しながら描きたいことをイメージした上で、画用紙に描くようにした。

また、構成の仕方の参考作品を用意したことで、どのように描けばいいか困ることが少なく、進んで表現しようとすることができた。

★教育課程全体で育てる資質・能力との関連

毎年、取り組んでいる読書感想画と関連させて題材を設定していることで、物語から感じたことや想像したことを描く経験が積み重なっている。ただ、読書経験や表現の技能の差から、今年度は描きたい本を自分で選ぶわけではなく、教師が選定した本から描いているため、同じ本から全員が描くことになった。今後は、継続して経験を積み重ねていくことで、指導面で大変ではあるが、自由に本を選べるようにし、本校の目標である自分らしさを発揮しながら描きたい思いを大切に、絵に表すようにすることができると思った。

2. 「主体的で・対話的で深い学び」の視点からの授業改善における子どもの変容

★造形的な見方・考え方の視点から

自分のイメージをなんとなくもっているものの、どのように表すかで手が止まってしまう児童がこれまでは多かった。昨年度から相互鑑賞を大切にした図工の学習を進めたり、過去の読書感想画の表現や友達の表現の工夫から、自分の表したいイメージに合うように見付ける活動を行ったりしたことで、自分の表したいこと（主題）と表し方が一致し、自信をもって効果的に表すことができた。「モーガンの家族がいなくなって、夜空を眺めている寂しい感情を表すために暗い色を使いました。周りを明るい色にして孤独を強調しました。」など色に関する造形的な視点で捉え、表現する児童が多かった。一方で、読書感想画の中で、形の造形的な視点の捉え方が難しいと感じた。

★「主体的で・対話的な」視点から

これまでは、読書感想画に対する苦手意識をもっていた児童も、出あいを工夫したことで表し方が分かり、その結果、自分なりの思いを表せるようになり、最後まで粘り強く取り組むことができた。また、これまでは活動を早く終わらせてしまったり、逆に時間内に終わらなかつたりしていた児童も一定数いた。今回は、児童一人ひとりが表したいことが明確になり、見通しがもてた児童が多く、時間ギリギリまで粘り強く取り組む姿が見られた。

自分との対話や活動の中で考えたこと、感じたことを友達と伝え合うことを通して、自分の見方や感じ方を広げたり深めたりできるような対話的な学びになっている場面が多く見られた。それは、昨年度から継続して伝えている、相互鑑賞のよさを児童達は実感し、どの題材でも自分から相互鑑賞しようとしていたためである。

★「深い学び」の視点から

「影があると、奥行きとか動きがでるね。」など知っていることをつなぎ合わせて新しい考えが生まれていた。また、「去年までは読書感想画が苦手だったけど、今年は上手く描けた。お家の人に見せたいな。」など自分の思いを大切に自分にとって新しいことをつくりだす喜びを感じることができた児童が多かったように感じる。